

## 編集後記

皆様のお陰をもちまして研究所報告第3号を遅ればせながら、お手元に届けることができ、安堵しているところです。この時期というのは日の経つのがいやに早く感じられます。昨年度の仕事の後始末やら、新年度の仕事が重なったため、今日になったことが惜しまれます。

口絵には、数ある中から「ふるさとの川モデル事業」、「多自然型川づくり」に関する事例、海外出張報告での写真を掲載しております。巻頭には、ドイツにおける多自然型河川工法の第一人者であるアーヘン・工科大学のゲルハルト・ルーベ教授の「多自然型川づくり」をテーマにしたシンポジウムでの記念講演記録を掲載しております。この中で、河川のモデルをつくり、高水敷の植生の方法を実験的に裏付けしています。このような地道な積上げには大変感心し興味を持ちました。

また、今回の論文「河道内樹木の管理について」の中では、樹木の持つ環境改善などの効果を有効に活用して、河川、水辺の魅力を高めるために、必要があれば死水域でない区域にも植樹を進めて行く工夫が必要だと触れています。テーマも以前と比べてみても時と共に変化し、「長寿社会」に関するものもあります。今後とも研究所報告をさらに充実させるために皆様に、より広い視野でのご指導をお願いしたいと考えています。

最後に、本研究報告が刊行できたのも、御指導を賜った学識経験者、御支援頂いた建設省河川局および各地建、公団、各都道府県、各市町村の各位のお陰であります。ここにお礼申し上げます。また、業務多忙のかたわら執筆頂いたセンター職員にも併せて感謝したいと思います。

編集担当 研究第一部 川崎 光雄  
角野 和美